

団体名	ローカル線プロレス実行委員会		
事業名	公共交通を守るまちづくり参加意識の醸成を図るイベントの開催		
助成事業区分	協同助成事業(テーマ希望型)【テーマ:やまがたまちづくり活動支援事業】		
団体の 所在市町村	(2019年度事務局) 白鷹町	事業費	1,109,604円
		うち助成金額	790,000円

事業目的

地方都市のまちづくりを考える上で重要な公共交通機関。高校生の通学の足となり、車の運転が難しい高齢者を支えています。少子化に加え、さまざまな問題が複雑に絡み合って公共交通の維持が難しい時代、政治的な話の手前に必要な、市町の枠を越えて沿線住民みなどで考えていこうというまちづくり参加意識の醸成を目的とします。

実施内容

2015年7月4日に世界初の走行中鉄道車両内でのプロレス試合を行った『ローカル線プロレス』をその後も年1回実施し、この度9月22日(日)に白鷹町文化交流センターAYu:Mにて第5回大会を開催しました。

2016年の第2回大会からのイベント構成を踏襲し、午前中に“列車プロレス”を長井線の貸切列車内で行い、午後『四季の郷』駅前の白鷹町文化交流センターAYu:M内交流広場に設置したリングで“駅前プロレス”を行いました。

事業の成果

フラワー長井線貸切列車内での“列車プロレス”についてはほぼ満席となり、第1回大会からすべて観戦しているという他県からお越しの方も複数いらっしゃいました。四季の郷駅前の白鷹町文化交流センターAYu:Mにおける“駅前プロレス”については無料開放し、沿線2市2町にお住まいの方を中心とした約500人の方にご来場頂きました。複数回このイベントの度に山形にお越しになっているプロレスファンと観戦・応援をともにした沿線地域の人々は、過疎の進む町でも面白いことが出来るという自信を、自然のうちに感じる事が出来たと思います。

昨年度2018年の第4回大会までを開催した長井駅前から、白鷹町文化交流センターAYu:Mに会場を移しての第5回大会も盛況のうちに終了することが出来たことで、沿線2市2町の枠を越えてフラワー長井線を守っていこうというまちづくり参加意識の醸成に一定の成果を出したと見なします。

また後日、河北新報、山形新聞の二紙にそれぞれイベントの様様を大きなワイド記事で掲載して頂きました。列車の中でプロレスをする、人の少なくなった駅前でプロレスをするというようなイベントでも、継続開催するなかで世間の耳目を集めることが出来、関心を持つ人が増やし、まちづくりのきっかけになりうることを示すことが出来たと思います。

今後の展望

沿線2市2町の枠を越えてフラワー長井線を守るというまちづくり参加意識の醸成をさらに深めるため、川西町・南陽市でも大会の開催を目指します。イベントを継続開催して認知度を高め、広告収入・グッズ販売の拡大を図ります。